

What?

Why?



所長 山本の

# ワイズリレーインタビュー

第21回 イーエヌ大塚製薬株式会社の執行役員 橋川秀治さんに聞きました!

栄養ケアで、生きるを支える。世界で必要とされる製品を岩手から発信。

Q まずは、業務内容を教えてください。

橋川 医療用医薬品の経腸栄養剤をはじめ、流動食や摂食回復支援食など、栄養ケア製品の研究開発や製造販売をしています。当社がここ花巻で、花巻工場では経腸栄養剤の「ラコール（液体／半固形）」や「ツインライン」などを製造しています。北上工場では、「あいーと」という摂食回復支援食を作っています。通常の食事が難しい方の栄養摂取をサポートするための食事で、見た目も栄養分もそのままなのですが、細胞と細胞の間をつないでいる繊維を酵素で切っているの、噛まなくてもずっと溶けていくほど柔らかいんです。お米やパン、ハンバーグや魚の煮物、正月はおせちも作っています。北上の工場は花巻と違って人手が多くて、まるでお弁当屋さんの雰囲気です。

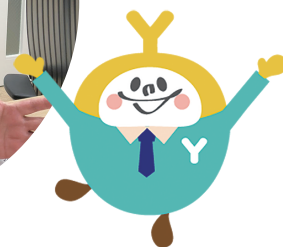
Q 会社の歴史を教えてください。

橋川 経腸栄養を通じて医療や健康に貢献する会社として、「大塚製薬株式会社」と「雪印乳業株式会社（現：雪印メグミルク株式会社）」、「株式会社大塚製薬工場」の3社の出資で 2002 年3月に設立されました。社名の「イーエヌ」とは、腸を経た栄養という【経腸栄養（Enteral Nutrition）】の頭文字が由来です。ここは、もとは雪印が経腸栄養剤の「ツインライン」を作るために 1993 年に建てた岩手医薬品工場でした。1999 年には兄弟製品の「ラコール」を作り始めましたが、2000 年と 2002 年に雪印問題が起きてしまったんです。岩手の工場は品質管理に問題はなく、製品は患者さんの健康回復に貢献できるものだったので、新しい会社を作って存続させることになり、私も籍が変わりました。新会社は3年目に黒字化して、新しい工場まで建てられるようになりました。

Q ご出身は花巻ですか？

橋川 長崎県の壱岐島（いきのしま）という離島の出身です。おやじは漁師で、JAICA で要請されるくらい腕利きなのですが、息子の私は先端恐怖症で針を見ると吐き気がして、船酔いもひどくて……。おやじは漁師になってくれることを期待していましたが、「国公立の大学なら、1回だけ受験のチャンスをやると言われ、岡山の大学に進学できました。そして大学院生の時、人生のターニングポイントがありました。いとこが拡張型心筋症に罹り、イギリスで心臓移植を受けないと延命できないことが判明して、雪印の研究職に就職が決まっていた、あとは修士論文を書くだけという時期だった

同社にとって花巻は大切な場所。「前身工場の雪印が北海道から最初に本州に来たのが花巻でした。今の会社になる時も感謝の思いで本社にしました」。



のですが、募金活動や心臓病の子どもたちの会に参加したり、臓器移植を考える会で渡辺淳一さんと対談する機会をいただいて、そういう活動をする中で、社会に対して恩返ししなきゃいけないという気持ちが芽生えました。活動前は、「何のために仕事をやるのか?」を深く考えずにいたんです。単純にがん治療の薬を作りたいという感覚でした。研究所で働き始めると、配属先がタンパク質を精製する地味な仕事で。思い描いていた研究と違っていたのですが、卑屈にならないで「なんでも役に立つから頑張ろう」と思えたのは、大学院時代のあの経験があったからだと思います。

Q 他社と違うセールスポイントを教えてください。

橋川 経腸栄養剤ですと、外国製品の他社に対してうちは日本人の体質に合った原料で開発しているところです。例えばタンパク質だと、外国製は動物性100%に対して、うちは大豆のタンパク質を半分入れています。油も他社は大豆油やコーン油に対して、うちは魚油と同じで抗炎症作用のあるω3系の油も配合しています。さらに、半固形の栄養剤を開発したことも強みです。液体タイプは投与に4~5時間かかるのですが、半固形だと7~15分に縮められました。そこで浮いた時間を患者さんのリハビリや運動に当てて、より有意義な1日を組み立てられるようになったんです。それに半固形だと逆流しなくて、下痢になりにくくなりました。今、薬価が下がっている中で、半固形の製品はその有用性が認められ 30%も薬価が上がって驚きました。あとは、食べるための口を作る「リフレケア」や、

Monthly  
Person



イーエヌ大塚製薬株式会社  
執行役員 / 総務部長

橋川 秀治 (はしかわ・しゅうじ)

1992年に雪印乳業の研究員になり、医薬品の臨床研究部などで関東勤務を経て、2000年に花巻工場へ。いずれ脱サラして花巻で自然農業を始めるつもりが、会社の困難に遭遇し、思い留まる。新組織の工場長や研究所所長を務めた後、現在に至る。長崎県出身。50歳。



(下)社訓の「品質は工場の生命にして包装も亦(また)品質なり。買う身になりて造れ売れ」。“おやし”として慕われていた大塚グループ創業者・大塚武三郎さんの言葉。(左)日本、そして海外に届けられているメイド・イン・岩手の製品。



株式会社共立精工 代表取締役 鹿討 康弘 さんからのご紹介



一般食に戻すための「あいと」など、トータルで栄養ケアを提案できる点も強みです。今は、手術後はなるべく早く食べて、機能を回復させる世の中になっていますが、食品メーカーでは難しい長期臨床試験データや他の薬との相互作用など科学的な検証をしてフィードバックし、病院の先生とも情報交換をしたりして、きちんとエビデンスを取っているの、安心して使っていただけます。

Q この仕事の魅力はどこに感じていますか？

橋川 これからも日本の高齢化率は増加していきますが、それに対して医療や介護の現場の人数は変わらないことが予想できます。どうやって現場の苦勞を減らすか？そして、元気な人を増やしていくか？これは国の課題になりますが、会社の強みをダイレクトに生かして社会貢献できることが魅力ですね。それに日本と同じように中国などでも高齢化が進んでいくので、海外ビジネス拡大の可能性が高いことも魅力の一つです。今は台湾、韓国に輸出していますが、東アジアや東南アジア、アラブにも展開していきたいですね。

Q 自分なりの勉強や情報収集の方法はありますか？

橋川 本が好きで家に溢れています。今一番の勉強方法はいろいろな人と会って話を聞くということです。ロータリークラブの活動で新しい人とのご縁が増えてそれを実感しています。誰かとお話をすると、「こんな世界があったのか」と気付けるので。鹿討さんの「ぬくまる食堂」の活動もその一つです。夏にアイス作りの講師をさせてもらいましたが、この冬休みも講師の機会をいただきました。今度プレゼンがあるのですが、望遠鏡や顕微鏡の工作、静電気の実験のアイデアが浮かんでいて、どれが子どもたちにウケるかを考えたりしていて、新しい世界が広がって楽しいですね。

Q 会社としての今後の目標を教えてください。

橋川 健康で長生きの方を増やしていくために、栄養ケアに関する製品や情報を的確に伝えていくことが課題だと感じています。あとは地域ですね。今、人の採用に苦勞していて、夜勤をなくせるように仕組みを試行錯誤中ですが、そもそも人が集まってくるような元気な地域でないと、今後のビジネス拡大も難しい面があります。地域の人材を育てるという部分で、会社としてできることは何かを考えさせられています。例えば子どもたちの好奇心をくすぐるような工場見学だったり。日本には資源がないので、科学や技術

の人材が必要になってくると思うので、そういう人材が花巻に増えるようにしていけたらいいですね。

Q 個人としての今後の目標を教えてください。

橋川 きのご鑑定士になることです(笑)。今、A級補助鑑定員で、5段階あるうちの下から2番目なので、まだまだ勉強が必要です。日本酒に合うきのこや、流通はしないけれどすごく美味しいきのこ、毒きのこのような真っ赤なきのこのなかに美味しいきのこなど、きのこの世界は奥深いです。会社で生えているきのこを間違えて食べて、苦い思いをしたこともあります(笑)。ちなみに毒きのこで、笑いがとまらないオオワライタケがありますが、笑いと言っても、あれは横隔膜が痙攣して、苦しめて引きつっているだけなんです。

Q 仕事をする上で、どんなことを大切にしていますか？

橋川 失敗を恐れないで、まずはやってみる事です。できない理由を色々考えると何もできなくなるのと、失敗したからこそ次につながるものがあると思っています。ルーツを辿ると、母親から「やれ、かんまん(構わないから、やってみなさい)」と言われて育ったからかもしれませんね。自分もそういうふうにしてきたいと思っていますし、部下にも「自分で考えて、どんどんやってみたらいいじゃない」と後押しを心がけています。

Q 最後に好きなタイプの芸能人を教えてください！

橋川 ドラマのキャラからですが、仲間由紀恵さんですね。可愛いのに三線の入ったタレントさんが好みます。

◎ 本日はお忙しいところありがとうございました。

経腸栄養剤の「ラコール」を製造中の花巻工場内。工場新設時に、点検用通路を見学ができる通路に変更。工場見学は、子どもから大人まで幅広く受け入れています。



イーエヌ大塚製薬株式会社

本社・花巻工場 花巻市二枚橋 4-3-5

☎ 0198-26-5261 <https://www.enotsuka.co.jp>